

中国における省エネルギーの動向分析

——家電及び設備のエネルギー消費効率基準&ラベリング制度の事例

Current Status of Energy Conservation in China

The case study for energy efficiency standard and labeling of appliance and equipments

周 夏露 * · 工藤拓毅** · 田中鈴子 *

Zhou Xialu

Kudo Hiroki

Tanaka Suzuko

1. はじめに

国際競争力の強化、エネルギーの節約、二酸化炭素削減目標の実現のために、家電及び設備のエネルギー消費効率基準の向上による貢献が期待されている。本論文では、中国のエネルギー消費効率基準及びラベリング制度のこれまでの経緯と現状を概観するとともに、そこでの課題を考察しながら、今後の動向を展望する。

2. 主要家電及び設備の電力消費量

高度経済成長に伴い、中国の電力消費量は増加を続けている。そうした中で、家電及び設備のエネルギー消費効率基準の厳格化は、省エネルギー促進に大きく寄与することができる。加えて、ラベリング制度は、製品の省エネルギー性と省エネルギー基準達成率等の情報を消費者に伝えることによって、省エネ製品の普及を促進する。中国も省エネルギー政策としてだけでなく、国際競争力の強化、二酸化炭素排出削減目標の達成に向けて、制度を積極的に導入・実施している。

3. エネルギー消費効率基準及びラベリング制度の現状

3.1 エネルギー消費効率基準

1970年代末から1980年代初めに、世界各国は家電のエネルギー消費効率基準を導入し始めた。

中国は1989年12月25日に、元国家技術監督局(現:国家質量監督検閲検疫総局)が初めて冷蔵庫、ルームエアコン、洗濯機などを含めた9種の家電のエネルギー消費効率基準を発表し、1990年12月1日に正式に実施した。2009年12月までに、中国は家電及び設備に係わる33項目の強制的なエネルギー消費効率基準を公布している。

3.2 エネルギー効率ラベリング制度

中国では、ラベリング制度は強制的に実施されている。2005年3月に、国家発展改革委員会と国家質量監督検閲検疫総局は、共同で「エネルギー効率標識管理弁法」を発

表し実施した。

2010年10月まで7回にわたってエネルギー効率ラベリング実施製品リストを公布し、現在は家電、オフィス設備、工業設備、照明設備等22種の製品を対象としている。

4. エネルギー消費効率基準及びラベリング制度の問題点——基準・ラベル制度と現実のギャップ

エネルギー消費効率基準及びラベリング制度は、省エネルギー政策の有効な手法として採用されているが、現状の制度はいくつかの問題点を抱えており、基準と現実とのギャップが生じている。このため、制度導入による省エネルギー効果が十分現れていないと考えられる。ここでは、基準検討と市場とのギャップ、評価方法、地域差、対象製品、販売促進の不足の観点から課題について述べることにする。

5. エネルギー消費効率基準&ラベリング制度の今後

以上の課題を踏まえ、課題解決のための今後の取り組みのあり方について検討を行う。まずエネルギー消費効率基準の策定・実施・更新を行うスケジュールを最適に運用することがその第一歩である。そして、同じ製品群で異なったエネルギー消費効率が設定されることがないように、エネルギー効率の評価方法を統一化することが必要である。

また、中国の国土の広大さを考え、機器が利用される地域に応じた効率(消費電力量等)の評価方法を検討することも重要である。中国各地における製品の使用実態等を気候特性や地域社会・生活の違いも含めて把握し、機器の実使用に応じたエネルギー効率(エネルギー消費量)を消費者に提示して、より効率的な機器の選択を適切に促すことが期待される。

省エネルギー基準と省エネラベリング制度を統合して運用することが必要である。最後に、エネルギー消費効率基準の向上とラベリング制度の拡大に伴い、販売段階でもその効果を実現するために、省エネルギー製品普及推進優良店の様な推進策を導入すべきだろう。

お問合せ: report@tky.ieej.or.jp

*日本エネルギー経済研究所・地球環境ユニット研究員
〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ
e-mail karo.syu@tky.ieej.or.jp
**日本エネルギー経済研究所・地球環境ユニット総括
〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ